

久留米工業高等専門学校 令和5年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価(1/3)

会議名称：令和6年度第1回自己評価検討委員会（令和6年4月10日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）の令和5年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の審査項目

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	A	全て必修科目で本プログラム構成しており、1年次入学の学生全員が履修する。修得状況は及落査定会議で確認される。全学生および全教職員が利用しているMicrosoft365とLMSのWebClassを活用し、教材の共有やチャット等による個別指導などを行っており、学生の履修に対するサポート体制が整っている。履修率は100%であり、修得率は進路変更等による若干名の未履修者を除いたほぼ100%に近い状態である。
学修成果	A	本校は準学士課程における教育目標の一つに「数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成」を挙げており、全学科でリテラシーレベルを満足する教育を行っている。学修成果は、本プログラムの構成科目を含む全科目を対象とした年度末の及落査定会議を通じて確認される。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	授業改善検討委員会において、全授業科目を対象とした学生の授業評価アンケートを実施している。アンケート結果は授業担当教員にフィードバックされ、各教員は授業改善に向けた報告書を提出する。シラバスには科目の到達目標とルーブリックが掲載されており、学生自身も理解度を把握できる仕組みとなっている。学生の内容の理解度は授業評価アンケートの項目「この授業の内容を身近の方（保護者、友達など）に説明できますか」を用いて把握している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	全学生が本プログラム履修者であるため、履修を促す必要は無い。認定制度は学校のウェブページで紹介している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本プログラムは必修科目で構成されており、1年次入学者は全員が履修者であるため、編入生を除いた入学者に対する履修率は100%である。平成31年度の1年次入学者から本プログラムが適用され、以降すべての入学者（定員200名）が履修している。

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分

久留米工業高等専門学校 令和5年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価(2/3)

会議名称：令和6年度第1回自己評価検討委員会（令和6年4月10日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）の令和5年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の審査項目

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
教育プログラム修了者等の進路、活躍状況、企業等の評価	A	教育プログラム修了者は卒業生とほぼ同等であるため、卒業者の進路、活躍状況、企業等の評価は、キャリア支援室運営委員会が報告する卒業生の進路（就職先・進学先）によって把握している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	産業界からの意見は外部評価委員会による提言を通じて得る体制が整っている。令和元年度の外部評価委員会における講評で「データサイエンスにAIに関する講義を入れる」といった提言があり、一部の学科が対応している。また、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム九州・沖縄ブロックに参加し、情報を収集している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	学生の授業評価アンケートの項目、「この授業の内容に興味をもちましたか」、「あなたはこの授業の説明を熱心に聞きましたか。熱心に聞いた場合理由を回答してください」を用いて把握している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業にすること	A	学生の授業評価アンケートの項目、「この授業の教科書、プリント、指導書等の教材は適切でしたか」、「授業中に質問できましたか」、「この授業で質問をしやすくするなど、双方向性を持たせる工夫がありましたか」を用いて把握している。

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分

久留米工業高等専門学校 令和5年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価(3/3)

会議名称：令和6年度第1回自己評価検討委員会（令和6年4月10日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎）の令和5年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」の審査項目

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	A	全て制御情報工学科の必修科目で本プログラム構成しており、同学科に1年次入学する学生全員が履修する。修得状況はリテラシーレベルと同様である。
学修成果	A	制御情報工学科は「メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する」を目標としており、応用基礎レベルを満足する教育を行っている。学修成果は、本プログラムの構成科目を含む全科目を対象とした年度末の及落査定会議を通じて確認される。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	リテラシーレベルと同様である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	制御情報工学科に入学する全学生が本プログラム履修者であるため、履修を促す必要は無い。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本プログラムは必修科目で構成されており、1年次入学者はすべて履修者であるため、編入生を除いた入学者に対する履修率は100%である。平成30年度の1年次入学者から本プログラムが適用され、以降すべての入学者（定員40名）が履修している。
教育プログラム修了者等の進路、活躍状況、企業等の評価	A	リテラシーレベルと同様である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	リテラシーレベルと同様である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	リテラシーレベルと同様である。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業にすること	A	リテラシーレベルと同様である。

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分